

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 01 月 19 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	井上 漱太

## 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

新潟県 新潟市 新潟大学

## 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

日本動物行動学会への参加と発表

## 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 28 年 11 月 11 日 ~ 平成 28 年 11 月 13 日 (3 日間)

## 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

## 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

11 月 11 日から 13 日の 3 日間、新潟大学でおこなわれた日本動物行動学会に参加してきたので、そこでの発表と意見交換について報告する。

私は 6 月にポルトガルにておこなったドローンを用いた馬の空間配置に関する研究のポスター発表をした。私以外に哺乳類について発表している参加者は多くなく、多くの発表は鳥、昆虫、魚に関するものであった。ドローンを使用していることと野生馬という珍しさからか、多くの人が聞きにきてくれたように思う。特にドローン使用に関して興味を持った参加者が多かったように感じる。しかし、実際にはそのほとんどが環境や法律などの問題でドローン使用がほとんど不可能である状況で、私のフィールドがいかに恵まれているものであるかを実感した。自由さをフルにいかした研究をおこないたいと感じた。

本格的な学会発表ははじめてであったので、最初は緊張した部分もあったが慣れてくると、楽しんで意見交換を行うことができた。意見交換のなかでいただいた様々な提言をこれからの研究に生かしたいと思った。

他の発表は実験室でおこなっているようなものやモデル動物を使用したものが多く、自分の研究とは直接関係するものは決して多くなかったが、どの研究も着眼点やアイデアに溢れており、自分の研究にももっとそういったものを取り入れていかなければと感じた。自分の研究と関連するしないに関わらず、新たな知識、考え方を一度に得られる素晴らしい機会であった。来年はさらに面白い研究をおこない、発表したいというモチベーションを持つことができた。



学会会場入り口



ポスター発表会場の様子  
(日本動物行動学会 HP より)

## 6. その他 (特記事項など)

発表した研究の支援、学会参加への旅費の支援をしていただいた PWS に感謝申し上げます。